

令和3年度 京都府立嵯峨野高等学校 学校経営計画（スクールのマネジメントプラン）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>◇ 「和敬」・「自彊」・「飛翔」を教育の柱に据え、志を持って人生を主体的に生きる生徒を育て、国際社会のさまざまな分野でリーダーとして貢献できる人材の育成を目指す。</p> <p>◇ 高いレベルでの自己実現を希求し、主体的に学ぶ姿勢と高みに挑むチャレンジ精神を備えた生徒の育成を図る。</p> <p>◇ 豊かな人間性の育成と高い学力の伸長を図る。</p> <p>◇ 生徒・教職員が一体となり、社会の教育力を有効に活用しながら Sagano Dynamicsを推進する学校づくりを進める。</p>	<p>① ICT機器の導入を機に校内研修を充実させることにより学校全体で実践例を共有し、授業改善を進めることができた。Google classroomの活用が進み、臨時休業中にも面談・学習指導が継続できた。今後は、BYOD導入にあたり、生徒端末の活用についての研鑽を積み、さらに授業の室を高めることが必要である。</p> <p>② アカデミックラボを組織的に運営することができた。コロナ禍においても課題探究成果発表会や報告会をウェブを活用しながら実施することができた。今後は、課題研究の成果と課題を教員間で共有し、より深化した探究活動を展開していきたい。</p> <p>③ 日々の学習指導や進路学習、個別面談等を通じて、将来像を明確化し、高い進路目標の設定につなげることができた。高大連携のさらなる発展と新しい大学入試システムについての研究を継続し進路指導に生かしていく必要がある。</p> <p>④ 制限が多い中、学校行事やHR活動については、生徒会が中心となり、生徒が主体的に考え、能動的・積極的な取組を展開することができた。人権学習を核とした生活指導を通してバランスの取れた人権感覚の涵養につなげることができた。今日的課題であるSNSの正しい活用については継続指導が必要である。</p> <p>⑤ 新型コロナウイルス感染症予防については全校体制で取り組むことができた。校内美化、環境整備については引き続き積極的に取り組んでいきたい。</p> <p>⑥ 学校説明会において生徒の広報委員が主体的に関わり、学校の魅力を発信することができた。今後は、ホームページの内容をさらに充実していきたい。</p>	<p>(1) 1人1台端末を活用した個別最適な学びと生徒の主体的・協同的な学びを推進し、ICTを含む様々な学びの方法により、生徒が自ら学ぶ意欲を喚起する授業を実践し、学ぶことの楽しさとともに基礎基本を習得させ、新学習指導要領にのっとり、主体的に学ぶ生徒を育てる。</p> <p>(2) 社会との関わりの中で高い志を持って何ごとにもチャレンジし、成果からは達成感を、課題からは新たな行動を生み出すことのできる生徒を育てる。</p> <p>(3) 教職員は多面的な指導を通して、自ら高い進路目標を定め、実現に努める生徒を育てる。</p> <p>(4) 全校体制でSSHやラボ活動を実施し、探究心や独創性を育てるとともに、GLIに基づいて社会性と国際性を豊かにする実践をととして国際的に活躍できる生徒を育てる。</p> <p>(5) 地元京都や日本の伝統や文化を理解し、それらを世界に発信できる生徒を育てる。</p> <p>(6) 日々の生活において自己管理ができ、社会の動静に関心を持ち、主体的に判断し行動できる主権者となる生徒を育てる。</p> <p>(7) 特別活動は生徒の主体的な活動の場とし、様々な場面でリーダーを育て、コミュニケーション活動を重視しながら活気ある学年及び学校集団を創る。</p> <p>(8) 学校の様々な魅力をあらゆる機会や手段を用いて広く伝え、府民から選ばれる学校作りを目指す。</p>

評価基準

A 充分達成できている(目標以上の成果が得られた) B ほぼ達成できている(ほぼ目標どおりの成果が得られた)

C 達成できているとはいえない(成果が不十分である) D ほとんど達成できていない(ほとんど成果がない)

評価領域	令和3年度 重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
魅力ある学校づくり	1人1台端末を活用した個別最適な学びと生徒の主体的・協働的学びを推進し、新学習指導要領にのっとり、主体的に学ぶ生徒を育てる。	あらゆる教育活動の場面で、クラウドサービスやビデオ会議システム等のICTの利活用を推進する。特に、1年生では、1人1台端末(iPad)の積極的な活用をHRや進路学習等様々な場面でを行い、その活用事例を共有する。	A	(成果) ・クラウドサービス等ICTの利活用を推進し、コロナ禍でも教育を前に進めることができた。 ・ICT質問箱を設け、きめ細かい対応策を講じるなど、学校全体として、ICT機器に関する情報共有ができた。 ・ビデオ会議システム等を活用し、始業式、終業式、進路ガイダンス、各種説明会を実施することができた。 ・1人1台端末およびHR設置のプロジェクトを活用した授業の推進が各教科で進められた。 ・GIやSEの授業内で、オンラインを活用した多くの国際交流を実現することができた。 ・研修旅行やフォトコンテスト、ラボ活動を通して、日本や京都の文化の価値を再発見することができた。 ・様々な授業やラボ活動を通して、SDGsなどについて知識・理解を高めることができた。 (課題) ・学びの深化につながる学習タブレット端末の適切な使い方の検討とその情報共有や情報モラルの構築のためにデジタルシチズンシップ教育の推進に努める必要がある。 ・Google ウェブアプリケーションをiPadで利用する際の不具合の検証が必要である。 ・端末管理担当の業務内容を整理し改善する必要がある。 ・教員が常時使用できる端末の整備が必要である。 ・既存の校是・教育目標およびGLIを踏まえて、スクールポリシーを検討していくことが必要である。
		思考力・判断力・表現力の向上を目的とした授業実践を教員間で共有し、課題を明確にし発展していける持続可能なシステム作りを図る。	B	
		情報モラル教育の充実に加えて、世界標準のデジタルシチズンシップ教育の現状の情報共有を行い、実施方法を構築する。	C	
	日本の伝統や文化を理解し、世界に発信できる生徒を育てる。	ラボ活動、オンラインを利用した国際交流等を通じて、日本の伝統や文化の価値を再発見し、それらを表現・発信する力を育成するとともに、世界を俯瞰する力、協働する力を育成する。	A	
	ユネスコスクール認定校として、SDGsなど持続可能な環境や社会作りの観点から社会貢献できる若者を育成する。	環境や地域の様々な課題に目を向け、持続可能な発展を支えるのに必要な課題設定・解決能力を育成するために探究活動の充実を図ると同時に、国際教育を推進して英語力と国際性の育成を図る。	B	
組織とその運営	社会との関わりを重視しながら、全校体制でスーパーサイエンスハイスクール(SSH)、ラボ活動、グローバル・リーダーシップ・イニシアティブ(GLI)を円滑に実施する。	課題研究の指導法を教科を超え共有する。また、SSH2期の取組を総括して、課題を明確にして3期の取組の指針を決定し申請を行う。	B	(成果) ・SSH2期を振り返り、現状の課題を抽出し、SSH3期の申請をすることができた。 ・探究活動の発表会を通し、学年を越えた学びの共有ができた。 ・ラボ発表会だけでなく、2・3年ラボ交流会や1・3年キャリアワークショップなど学年を越えた探究活動の情報交流ができた。 ・DSTを用いたアカデミックラボ研修会を通して教科を越えた指導法の共有ができた。 ・GLSEなどの授業中の活動のみならず、国際交流委員の活動としてオンライン・オフラインの国際交流を継続的に行うことができた。 (課題) ・探究活動が主体的な学びの推進や進路選択・キャリア意識の形成につなげられるようにするしくみの構築が必要である。 ・アカデミックラボ・スーパーサイエンスラボの担当以外の教員にも情報共有ができるようにする必要がある。 ・課題研究に関する成果やノウハウを校内のみならず、学校外へもさらに発信していくことが課題である。
		探究活動を通して修得した学びを学年を越えて生徒同士が共有できる仕組みを作り、主体的な学びの推進を図る。	B	
		課題探究活動において、自己と社会との結びつきや進路選択のあり方を念頭に置き、広い視野に立った進路選択のあり方や自己と社会との結びつきをふまえたキャリア教育の充実に努める。	B	
		コロナ禍において、国際交流のプログラムをオンラインとオフラインのハイブリッド型の活動で行い、異文化理解及びグローバルシチズンの育成のカリキュラムデザインを模索し、構築していく。	A	

評価領域	令和3年度 重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
学習と進路指導	生徒は志を持ち、高い進路目標を主体的に定め、自ら努力し、教職員はその実現を図るよう創意工夫を行う。	進路ガイダンスや進路関係の会議等を通して、難関大をはじめとする高い進路目標に向かって努力する生徒集団の育成をはかる。	A	A	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高大連携であるサイエンスレクチャーやサイエンスフィールドワークを1年生および2年生全員を対象に実施することができた。</li> <li>・コロナ禍でも、オンライン等の工夫をしながら進路ガイダンスや説明会を実施することができた。</li> <li>・進路学習や複数回の面談、学習カルテの活用、学年アッセンブリー等を通して、主体的な学びへと導くことができた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領の各「教科」における探究活動の指導法などの研究をすすめる必要がある。</li> <li>・学校教育全体のバランス（探究活動や「主体的な学び」と「思考・判断・表現」の比重）を考える必要がある。</li> <li>・観点別評価実施に向けて、教員間で方針を共有し、生徒・保護者へ説明していく必要がある。</li> </ul>
		高大連携の取組やラボ活動、日々の学習の成果を有機的につなぎ、将来の学びへのモチベーションを高める。また、進路HRや面談等を効果的に活用し、個々の生徒がそれぞれの目標を実現できるようサポートする。	A		
		多様な大学入試について、学校全体で共有し、各入試についての認識を高める。	B		
		生徒が主体的に学習ができるように、適切に評価することでPDCAサイクルを実施させる。また、そのための適切な評価方法を検討する。	B		
生徒指導と特別活動	生活全般において自己管理ができ、身近な事柄や社会の動静に関心を持ち、主体的に判断し行動できる意識の高い主権者を育てる。	生活面において課題のある生徒に対して継続的にサポートしていく。	B	B	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の個々の状況に応じたサポートを継続し、コロナ禍でも充実した学校生活になるように配慮することができた。</li> <li>・生徒会や各委員会で工夫を凝らしながら様々な行事を企画、運営し主体的・積極的に活動する姿勢が見られた。</li> <li>・個人面談や教科担当者会議、学年会議等を通して、課題のある生徒の情報を共有し、効果的にサポートすることができた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶をはじめとした基本的な生活習慣を身につけるための取組が必要である。</li> <li>・人権学習準備における担当者の負担解消の必要がある。</li> <li>・生徒会が生徒代表として活躍できる場の設定が必要である。</li> </ul>
		人権学習では、生徒に気づきを持たせるような内容を実施するとともに、各教科の授業においても人権問題を視野に入れて取り組む。	B		
	特別活動は生徒の主体的な活動の場とし、リーダーを育て、活気ある集団を創る。	生徒会・各委員会活動や文化祭・体育祭等の学校行事等の活動の場を広げ、企画・運営する力やリーダーシップを育む環境をつくる。	B		
健康安全と環境美化	自ら健康管理ができ、落ち着いた学習環境を作ることのできる生徒を育てる。	心身両面において支援の必要な個々の生徒のニーズに対応し、健やかな学校生活を送らせる。またその過程を通じて、高校卒業後に必要な能力を育成できるようにも支援していく。	A	A	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マスクの着用や風の巡回を通しての黙食の徹底を指導することができた。</li> <li>・大学入試において配慮を要する生徒に対し、計画的に支援することができた。</li> <li>・保健美化委員会の活動により環境美化意識の向上に努めることができた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみの分別の不徹底が見られる。</li> <li>・心のケアを必要とする生徒に対する指導について、常に見識を広げる必要がある。</li> </ul>
		HR等を通じて、感染症対策の徹底の意識付けを行う。特に、教室の換気、手洗いの励行、マスクの着用を全教職員でより一層徹底させる。	A		
		環境美化の意識を高めるとともに、ゴミの分別をさらに徹底する。また、意識向上のために、保健美化委員会の活動を活発にする。	B		

評価領域	令和3年度 重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
メディアの活用	学校図書館の機能や役割の充実を図り、教育活動や教職員の調査・研究活動を充実させる。	広報紙の発行や各種の企画展示等を通して、図書館の積極的利用を勧め、生徒の自発的・主体的な読書習慣の形成に努める。	A	A	(成果) ・多様な企画展示により生徒の読書への興味関心を喚起することができた。 ・小論文指導の材料となるような図書を幅広く紹介することができた。 ・Wi-Fi環境の整備に伴い、図書館での端末利用が進んだ。 (課題) ・資料提供の充実とともに、一人一台端末利用に対して、安定した接続環境や設備を保つことが課題である。 ・情報リテラシーを身につけ正しい情報を得られるように指導していく必要がある。
		図書館と各教科が連携して、図書資料等の整理・充実やICT機器の活用に努め、探究活動の支援及び言語活動の充実を図る。	A		
		教職員の教科指導や研究活動に関し、資料・情報の収集に努め、図書の供用や情報提供等、教職員へのサポート機能の充実を図る。	A		
家庭・地域社会との連携と広報活動	学校の魅力を様々な機会や手段を用いて発信する。	HPを用いた情報発信をスピーディにおこなうとともに、わかりやすさ・見やすさを意識した画面作りを心掛ける。	B	B	(成果) ・コロナ禍においても形態を工夫して学校説明会を実施し、本校の教育活動について広報することができた。 (課題) ・道学圏による志望動向の変化に対応した広報活動が必要である。 ・状況に応じた学校説明会の開催について検討する必要がある。 ・HPについて、より効果的に情報の発信のため大幅なりニューアルの検討も必要である。
		コロナ禍においても教育活動が推進されている現状、特に生徒の主体的な活動について広報する。	A		
		school identityの構築・共有化に努め、全校体制で広報活動を推進する。	B		

学校運営協議会による評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍においても、これまでの活動を継続しようと工夫していることは非常に評価できる。</li> <li>・嵯峨野高校ならではの目標を達成すべく努力を続けてほしい。</li> <li>・ICT機器の活用や授業配信など、ピンチをチャンスに変える取組からは、先生方の努力が伺える。</li> <li>・挨拶などの習慣は学校だけでなく家庭や地域の連携が必要である。その連携を強化することが必要ではないか。</li> <li>・成年年齢の引き下げなど社会情勢が変化することを踏まえて、準備できることをしておく必要があるのではないか。</li> </ul>
--------------	--

次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高い志をもった進路希望の実現に向けて、さらなる充実を目指した取組を実施する。</li> <li>・新学習指導要領の実施に伴い、適正な観点別評価の実施に取り組む。</li> <li>・学びの深化につながる学習用タブレット端末の適切な活用を各教科間で共有する。</li> <li>・情報モラルの構築のためにデジタルシチズンシップ教育の推進に努める。</li> <li>・探究活動が主体的な学びの推進や進路選択・キャリア意識の形成につなげられるようにするしくみを構築する。</li> <li>・本校の探究活動の成果やノウハウを校内のみならず、学校外へもさらに積極的に発信する。</li> <li>・持続可能な国際交流の手法を構築し、グローバルな世界で活躍できる人材育成に努める。</li> <li>・挨拶等の基本的なマナーや規範意識を醸成させ、自己の成長に資する教育に努める。</li> </ul>
---------------	--